

「グラスルーツ・アカデミー東北2017 in 宮城」 開催報告



「グラスルーツ・アカデミー東北」は、東北3県（岩手、宮城、福島）の次世代を担う女性たちが集い、学び合い、ネットワークを構築する場。2016年2月に岩手で第1回が開催された。東北で3回目となる今回は、「多様性を生かす」というテーマにフォーカス。3日間の日程で行われ、19人が参加した。

アカデミーの三本柱

- 1 お互いの経験から学び合うため自分自身も貢献する
- 2 課題解決につながるスキルや具体策を持ち帰る
- 3 他地域での実践を視察し、自地域の課題解決に役立てる

日程 2017年5月12日(金)～14日(日)

参加人数 19人(20代6名、30代以上13名)
スタッフ、子ども、関係者を含め39人

主催 NPO法人ウィメンズアイ

協力 特定非営利活動法人JEN

プログラム内容・スケジュール

1日目

13:00 オリエンテーション
13:15 チームビルディング 課題解決
16:00 [レクチャー] 多様な行動特性
18:00 事務連絡、夕食、懇親会

2日目

6:45 朝ヨガ(希望者)
7:30 朝食
8:30 オリエンテーション
8:40 参加者活動紹介
11:10 [レクチャー] 地域と再生エネルギー
12:10 昼食
13:10 [事例研究] 大谷海岸の住民合意形成
15:30 対話、質疑応答、各自の活動への応用
18:00 事務連絡、夕食

3日目

7:00 朝食
9:45 山元町到着
10:00 [事例研究] NPO法人ボラリス
12:00 昼食
13:00 壁画見学、イチゴワールド到着
13:30 3日間のふりかえり
15:00 終了

講師



吉田和美
体験型チーム
ビルディング
ファシリテーター



田口ひろみ
特定非営利活動法人
ボラリス代表理事



三浦友幸
一般社団法人
プロジェクトア
イス代表/大谷
海づくり検討
委員会



田島 誠
認定NPO法人
環境エネルギー
政策研究所
特任研究員

グラスルーツ・
アカデミー東北
とは?

2015年3月、第3回国連防災世界会議のプレイベントとして、国際NGOホワイロウコミッション(NY)によるローカルで活躍する女性たち向けのエンパワーメントプログラム「グラスルーツ・アカデミー」を、南三陸町で開催。その後それを日本とくに東北の被災3県(岩手、宮城、福島)にローカライズしたNPO法人ウィメンズアイのプロジェクト。参加要件は30代以下の女性で、何らかの組織でローカルの活動を行っていること。2017年10月に岩手で次の国内研修を実施予定。2017年2月にはシアトルでの北米研修を実施。2018年2月にロサンゼルス研修を予定。

宮城県の遠刈田温泉「ラフォーレ蔵王リゾート&スパ」を会場に、2泊3日の「グラスルーツ・アカデミー東北2017 in 宮城」が始まった。3日間のプログラムをレポートする。



1日目

5/12
(金)

オープニング、チームビルディング

◆チームアクティビティからスタート

「多様性を生かす」というテーマを体感するため、まずはファシリテーターの吉田和美さんの指示で外の芝生へ。名前を呼び合うワークで空気が和らいだ後は、3チームにわかれ、体を動かしてチームで達成する2つの課題に取り組んだ。どちらも難問で不可能ではないかと思われたが、講師の「過去にやった人たちはみんな達成しています」という言葉を頼りに、試行錯誤しながら進めていく。



すべてのチームが課題をクリアできたところで、課題に取り組んでいた間、チームのなかで何が起っていたのかを細かく振り返った。成功に至った秘訣はなんだったのか。屋内に戻りチームごとにさらに深く分析を進めた。

◆行動特性の多様さを、講義と対話で深く学ぶ

成功の鍵の一つは、多様な意見が出され、小さなPDCAサイクルを回す状態を作れたかどうか。振り返りのあと、人間の持つ4つの行動特性の考え方と、それを生かして成果をあげる組織づくりについて吉田和美さんの解説で学んだ。自分がどの特性にあてはまるかチェックし、同カテゴリーの参加者と共通の経験をシェア。その後、他のカテゴリーの参加者たちとの違いを、対話を通して検証した。



2日目

5/13
(土)

活動紹介、事例研究1



◆アカデミー参加者の活動紹介サーキット

短く、効果的に自分の地域活動を人に伝えるトレーニングとして、3カ所に設置されたブースで、1セット3分の活動紹介を3回連続で行う（聴衆・話者は入れ替わる）サイクルを回し、全員が活動紹介を行った。前日のワークや食事を通じて知り合えた参加者たちの話は、互いの共感を持って迎えられた。



◆地域のこれからを考える、市民電力のビジネスモデルに関する講義

再生可能エネルギーを地域に成り立たせるスキームづくりについて、講師の田島誠さんによる講義。収益性や資金調達といった具体的な面から事例を検討。導入を検討している地域も多く、活発な質疑応答が行われた。



◆事例研究1 多様な人々の間に対立構造を作らず地域課題を進展させる

大谷里海づくり検討委員会 三浦友幸さんの発表



震災後に持ち上がった気仙沼の景勝地大谷海岸への防潮堤計画。「砂浜を守りたい」という共通のビジョンを軸に、地区の振興会協

議会をはじめとした様々なステークホルダーを巻き込み、時に難航しながらも合意形成に持ち込み、行政に働きかけ、国道かさ上げへと計画変更成功した希有な事例の経緯を活動の4つのステージに分けて発表していた



だいた。

質問を通じて参加者との対話が繰り返された。なぜ、中立な立場を保てたのか。怒りの感情をどうコントロールするのか。何がそこまで三浦さんのレジリエンスを高めているのかといった、行動する人としての「ありかた」に参加者たちの質問が集中した。

◆答えのない問題を考える

ファシリテーターの吉田和美さんによる、体を動かすブレイク「人間知恵の輪」。やりはじめると、前日のようにはっきりした出口がある課題ではないとわかる。

着席し、三浦さんの話からそれぞれが感じたこと、学んだことをグループにわかれて話し、発表。人との時間を取ることで、人の話を聞くこと、観察すること、白黒つける正義を訴えて人を傷つけないこと、多くのキーワードが出た。

3日目

5/14
(月)

事例研究2、3日間のふりかえり

◆事例研究2 子育て、障がい者からのヒント、持続可能な経営の視点

NPO法人ポラリス 代表理事 田口ひろみさんの発表



精神障害者通所授産

施設の施設長になって3年目に東日本大震災。施設の活動を立て直すところからはじまったアートの取り組みが、障がい者をはじめ、みんなで地域のコミュニティを再生するプロジェクトに成長し、独立してNPO法人に。大変。でも、Happyを大事にしてイヤなことも鼻歌を歌いながらやる。

特産のイチゴハウスの清掃など人手が足りない地域の助けになる仕事を障がい者も請負い、ポラリスだからできる心のケアや、アートの事業、ネットワークづくりを行っている。社会貢献・社会事業も経営。「必要なもの」を届けることが持続可能な社会につながる。

少しお姉さん世代の女性が、主張し、チャレンジしながら地域で共感者をえてきた。ライブ感のあるお話に、参加者はエネルギーをもらった。障がい者アートについても関心が高く、質問が飛び交っていた。

ポラリスが手がけた駅前の壁画を見学後、震災後にで

きた画期的なイチゴ農場GRAイチゴワールド内のコミュニティスペースへ移動。ここにはポラリスのアート「イチゴ王子の大冒険」のタペストリーも展示されている。

◆振り返りの時間

多様性の理解は進んだか？ 3日間の共通点は何だったのか？ 気づき、印象に残ったこと、共感したことをお互いの理解のためにグループごとに話す。

その後自分だけでこの研修を振り返る時間を取り、最後に一人ずつ、一番の学びを発表し、すべての研修プログラムを終了した。



グラスルーツ・アカデミー東北in宮城を 見つめる視点～有識者から



吉田和美さん
体験型チームビルディングファシリテーター

若い女性たちのパフォーマンスの高さに期待

チームビルディングをこれまで実施してきた対象の多くは企業人で、それと比べると、はるかに早い段階で、達成意欲が高まり、コミュニケーション量も多く、パフォーマンスも高いと感心しました。

企業文化においても、女性は組織のマネジメント方法を学ぶ機会が少ないのが現状です。25年前は企業でもリーダーシップ研修やマネジメント研修に出てくる女性はいませんでした。今も管理職対象の研修では女性の割合は1割ぐらいです。地方で女性だとなおさらその機会がないことは、余計、孤独感につながるだろうと思います。

アカデミーの中で学ぶ場を提供できれば、それぞれのコミュニティや活動の場で即、活かせることが、今後の希望となります。大きな組織ではなく、地域に根差した小さなチームを活性化させる、まさに、グラスルーツですね。(談)



ジャッキー
若希・スティールさん
東京大学准教授

多様なコミュニティで民主的社会の基礎と変革力を支える

今回、フェミニスト学者として議論してきた教訓を思い出しました。「母」「女性」「被災者」「学者」という一つのアイデンティティに自分を閉じ込めないことです。複数の価値観・夢・役割を持った自分が変わっていくことを許す姿勢から実践をしていくことです。つまり自分を「固定化」しないこと、その姿勢を持つことが民間としての力であり役割だと思いました。代表制民主主義には主に2つの政党（考え方）の選択肢しかないけれど、コミュニティレベルでは違う。多様性が溢れているあり方・考え方・夢が可能です。社会の強みの鍵となります。地球が持続していくために必要な生物多様性のように、社会的多様性を守る社会ではリスクを分かち合うことにもなり、それが民主的社会の基礎です。自分も相手も攻めるために固定するのではなく、お互いの変容や変革する可能性を受容する。自分も相手も再構築できる場づくりを目指す、社会も再構築できる道が開きます。グラスルーツ・アカデミー参加者のみんなはその貴重な役割を草の根で果たしていて、尊重します。(談)

グラスルーツ・アカデミー東北 参加者アンケートから

被災地のなかでのつながり、学び合うことの意味を感じました。

全員が共感できるビジョンがあることで、多様性が良い方向に発揮されると学びました。

共感することの大切さを改めて知り、取り入れてます。

活動で迷いが出たときに指針となるような方々とたくさん出会うことができた。

これまでだったら、文句や愚痴で終わっていたかもしれないことに、具体的な突破口が見えるようになりました。

グラスルーツ・アカデミー東北 事務局・問合せ先



Women's Eye

NPO法人ウィメンズアイ
宮城県本吉郡南三陸町入谷山の神平10-1
womensacademyintohoku@gmail.com
担当：石本めぐみ、田浦佐知子



NPO法人ウィメンズアイは持続可能な開発目標を支援しています

発行：NPO法人ウィメンズアイ

編集：塩本美紀

デザイン：桜田ゆかり

撮影：古里裕美



この事業は、特定非営利活動法人JEN（ジェン）の協力により開催されました。

JENとは：世界各地で紛争や自然災害などにより厳しい状況にある人びとへ、緊急から復興の各段階できめ細やかな支援活動を展開する国際NGO。岩手・宮城・福島県では現地の団体とパートナーシップを組み、女性や若者、子ども等を支援する。